

米欧回覧

第15号
編集・発行
米欧回覧の会
事務局

芳賀徹先生を迎えて……

第十三回例会は、四月二十五日（日）午後一時半から国際文化会館ホールで、これまでの例会としては最多の八十四名の出席者を得ておこなわれた。

第一部ではこの四月に京都造形芸術大学の学長に就任された芳賀徹先生（東大名誉教授）による「岩倉使節団の見た西洋都市」と題する講演があり、比較文学の視点から都市に焦点を絞って「実記」を読み解くお話で、大変好評だった。新鮮な着眼、該博な知識、深い洞察、臨場感あふれる生き生きとした語り口で聴衆を魅了した。参加者は「米欧回覧実記」にもいろいろの読み方があり、特定のテーマで全体を見通す手法のあることや、その面白さを発見した



「米欧回覧実記」の魅力に酔う―第十三回例会―

ようであった。

コーヒーブレイクを挟んでの質疑応答も活発に行われ、内容の濃い有意義な時間をもつことができた。

なお、第二部は会務に関する全体ミーティング、第三部はスナックパーティーで四十五名が参加し七時までなごやかに語り合い懇親を深めた。

四年目を迎えての新东方針 ―全体会議と幹事会から―

第十三回例会の第二部では、始めに会務全般についての年間報告があり、各分科会の担当幹事から今後の活動計画も含めての報告があった。

そして主宰者の泉三郎氏より四年目を迎えた会のあり方について問題提起があり、それにもとづいて全員が参加するブンブンミーティングが行なわれた。ここでは別記の通り会場からも様々な意見が出された。

そしてこの全体会議を受ける形で五月十七日幹事会が開かれ、基本方針の確認と新しい活動計画ならびに会費改定が決められた。詳細は次ページをご覧ください。

満三歳を迎えたわれわれの「サロン」はおかげさまで非常に望ましい形で育ってきています。このサロンの特徴は、温度差こそあれ、ある種の「世直しのな志」をもった人の集まりであり、それをベースに異なったキヤリア、意見をもった人たちが共存し、談笑の内に意見交換のできる場であることです。そこには右も左も、鷹派も鳩派も、保守派も進歩派も、国際派も国内派も、市場経済派も環境保全派も、まるで異域同舟の岩倉使節団のように混在しています。

2001年 夢・プロジェクト

泉 三郎

全五巻も出る予定であり、世界各地から「実記」研究者を招いて研究会をやる、一千年単位の文明の大転換期なのだから「21世紀の地球ビジョン」を提言し合う会議を開催しよう、あるいは岩倉ミッシェンの映画を制作する、「翔ぶが如く」的な大河ドラマを制作すべきだ、いやいやアメリカの「市民戦争」的ドキユメンタリー映画をつくるべきだ、さらには客船をチャーターして有志を募り「世界一周の視察旅行」をやるべきである、いやいやそれでは時間がかりすぎるからジェット機をチャーターし「全地球回覧の旅」をやるべし、などなど、景気のいい話がとびかっています。なにしろほら吹き大臣や夢想国士がいろいろ揃っているサロンだけに話だけでも楽しいことは事実です。しかし、それにしても何かそのうち一つでも実現できないかと、「2001年プロジェクトチーム」を作ろうということになりました。「よし！私もコミットしてみよう」という方はふるってご参加を……

《全体会議》

泉三郎氏の問題提起

この会にはもともと、三つの側面がありました。

第一は、「岩倉使節団」や「米欧回覧実記」についてもつと良く知ること、つまり歴史や文明の勉強・研究です。

第二は、「岩倉使節団」のことや「米欧回覧実記」のことをより多くの人に知らせることです。

第三は、そうしているいろいろな歴史から学んだことを現代に生かすことです。

三年間の会の活動をみてみますと、大体この延長線上に例会や各種の分科会となって展開してきました。

「知ること」についてはまず「実記を読む会」が、「岩倉使節団」を起点にした日本の近代の歴史を知る面では「歴史グループ」が、その役割を果たしてきました。

「知らせること」については「映像の会」や各地で行なわれる各種の講演会が中心にやってきました。

第三の「現代に生かす事」については「現未来のグループ」を中心にいろいろの試みがなされてきました。

そしてそれを支える形で楽しいサロンとしての国際交流や各種親睦のパーティーが催されてきました。

しかし総じて言えば、これまでのことは内輪の勉強会だったという感じがします。外への拡がりという点では、今一つという感じが拭えません。

ただ、その結果として率直に話し合える場は出来てきたし、問題の大体の見取図も見えてきたような気がします。ある意味では機は熟してきたといえるかと思えます。

そこで今後の展開の仕方として「三つの脱皮」をはかることが考えられます。

第一は、より深く勉強すること。それには：

①基礎的な研究として：「多面的に実記を読む」
②歴史的な研究として：「日本の近代史を概観する」
③「近代文明そのものの研究」

これはそれぞれリーダーが中心ですすめていく。そして何らかの形で外部に発表をを目指す、シンポジウム形式もありうるし、出版という形もあり得ましょう。つまり研究集団への脱皮です。

第二は、「岩倉使節団」の意義、「米欧回覧実記」の素晴らしさ、

「日本の近代化の意味」をもつとよく知らせることです。その具体的な例が、現在のスライドを使つての講演会やビデオ化、テレビ放映、などです。つまり啓蒙集団・教育集団への脱皮です。

第三は現代日本社会への提案、現代政治への提言です。二十一世紀を見据えてのビジョンの提示といつてもいい。

これはいま「現未来」グループが試みにやりにかけていますが、総論・各論いろいろの方法が考えられます。要は、現代の問題点を究明してそれに対して具体的提言を発表していく、つまり、政策提言集団への脱皮です。

せつかくこれだけの人材が集まっているのですから、その力を結集しない手はない。いわば「平成の使節団」という心意気ですね。そういう方向でいけば面白いんじゃないか、むしろ一年でやろうと思つても無理がありませんから、三年くらいのスパンで考えていいと思います。

もつとも人それぞれに事情がありますから、そこまでやれないやりにくくないと言う人も当然あります。そういう人たちは従来通りサロニックにやっていく…それはそれで

会場からの意見

いいと思います。まあ、そこがこの会の融通無碍なところでありますから…。しかし、それで物足りない人にやるなとはいわれない、やる人には積極的をやつてもらおう、どんなやつてもらつたらと思います。つまり複線路線ですね。そんな考えを前提にして今後のことを論議してもらえないか、というのが私の提案であります。

(1) 会の基本的な性格について

- サロンであるのがいい
- 現行の通りでいい
- 政治的行動は行なうべきでない、やるなら別行動で…
- 余りアグレッシブな行動はどうか、ゆるやかにいきたい
- 日本の現況を思うとじつとしていられない
- 議論ばかりしていてもはじまらない、何か行動しなくては…
- 主宰者と幹事さんの意図する方針でよろしいと思う

(2) 知る・研究する

- 「実記」は難しいから、現代語訳を考へるべきだ
- 「実記」はもっと立体的に読むべきである

(3) 知らせる・伝達する

- 若い人が少ない、若い世代へのPRが必要、若い世代が入つてこないこの会の未来はない
- 無理に若い人を入れることはない、むしろわれわれ自身が若い人の間に入つていくべきだ
- 会報の内容をもつと充実すべきだ
- 例会だけでなく各部会の情報も知らせたい
- ニュースの紙面を増やして魅力的な記事を盛り込んでほしい
- 久米美術館や横浜開港資料館などの交流を望む
- インターネットにホームページ

- 1ジを日本語と英語で設けたらどうか
- 映像スライドを貸出し全国津々浦々いろいろのグループで上映出来たらいい
- スライドをビデオ化して見やすくすべきだ
- プロの手で映画にするのが一番だから、その仕掛けを考えるべきだ
- 「実記」をマンガ化すべきである
- 日本のモデルは近代化の参考になるので、発展途上国に向けて発信すべきだ
- 「実記」のとりあげている技術問題をもっと掘り下げてはどうか
- 各部会が報告書を作る、できればちゃんとした書物にする
- 地域の学校や公民館なども岩倉使節団のスライドや話をすべきだ
- (4) 提言する・行動する
 - 国レベルの提言をすべきだ
 - 都へも政策提言をすべきだ
 - 仮想議会のようなものをつくって大いに議論し、現実の政治にインパクトを与えていくことは出来ないか
- (5) 会費について
 - 活動を充実させるには金が

要る、会費をあげるべきではないか
 ● 会費が安い、もっと高くしてもよろしい
 ● その他
 ● 楽しい事も大いにやるべし
 ● 勉強ばかりじゃつまらん

《幹事会議》

全体会議の議論を踏まえて五月十七日、幹事十一名が出席して討議をし、次のような展開をはかることに決まりましたので、皆さんのご理解とご協力をお願いします。

(一) 基本路線の確認

サロンと別働隊の複線方式
 基本はあくまでも従来通りのサロンでいく。
 その存在理由は「異なった意見が共存できる場」。異なった文明・価値観の共存を目指す、知的でクリエイティブなサロンということになります。
 ただ、勢いのおもむくところ有志がより深く研究をすすめたり、外部に向けて提言・行動をすることも考えられるが、複線路線としてそれも認める。ただし、それがサロンの枠内からはみ出るような場合は、有志の別働隊として会からは

独立した形をとってやる。
 サロンはゆるやかで居心地のいい母港のようなものと考え、その中からあるグループが育ち独り立ちして飛び立っていくとしても、それはむしろ大いに歓迎しようという考え方はです。

(二) ゆるやかな拡大

現状維持でもなく、積極拡大路線でもない、自然体で、無理なく、ゆるやかな拡大、充実路線で行く。

(1) 知る (研究)

「実記」を読む会
 歴史部会 日本近代史

(2) 知らせる (啓蒙)

ニュース(機関紙)の充実
 インターネットの利用
 スライドの貸出 その他

(3) 提言 (行動)

現未来部会 その他

(三) 新グループ設立に 関して

(1) インターネット

● 知る・知らせる双方の情報ネットとしてインターネットの利用が急務になってきた。そこでインターネット・ホームページの開設を含め、グループを新設したい。
 ● ニュースの充実、編集は、インターネットの活用と深

く関連するので、このグループの結成と並行して編集グループも考えたい。
 ● インターネットの活用は、若い世代へのアプローチの上でも海外との情報交換の上でも非常に効果が期待される。
 ● インターネットの開設は簡単でも、問題はフォロー、メンテナンスであり、そのためには有志がチームを組んで対応する必要がある。
 ● 体制が整えば、資料収集、管理、編集、CD-ROM化なども可能になる。

(2) スライド

● 現在のスライドのうちダイジェスト版について貸出用のものをつくり、ある基準を設けて会員に貸し出す。これによりさまざまな小さな会合、私的なグループでも上映が可能になり、一般に「知らせる」効果は非常に大きいと思われる。なおスライド機器やテープの扱いについて簡単な操作ビデオを作成する。
 ● このグループはスライドの上映ばかりでなく、新しいスライド資料の収集や映像の編集・製作も行なうことが考えられる。

● 持ち運びの便さ、操作の簡便性などからして、ビデオ化を望む声が多いが、これには画質、著作権、制作費などの問題が絡んできて、現時点で即実行は難しい。したがってこれは専門家のメンバーで検討を進めるということで、当面の貸出はスライドに限定する。

(3) 2001年プロジェクト

五周年記念事業として具体的なプログラムを立案し準備するチーム。これには各種シンポジウム、記念出版、映画製作、記念旅行などがアイデアとして挙がっているが、それを具体化し実行する特別チームの設立ということになる。

(4) これらについては会員からアンケートをとりその結果でメンバーが揃えば具体的展開をはかる。

(四) 会費の改定

会費は
 一般会員 年間五〇〇〇円
 他に賛助会費を設ける。
 個人 一口 一〇〇〇〇円
 法人 一口 三〇〇〇〇円
 なお、会費の改訂は八月一日とする。



岩倉使節団の見た西洋都市

芳賀徹先生の講演から（抄録）

芳賀先生の講演は、左記資料の「実記」を朗読しながら、適宜に解説やコメントを加えていく方式で、岩倉使節の旅を追体験しながら、現代にタイムスリップする二重の楽しさをもつものだった。
それは時に久米引用の中国古典におよび、時には現代日本の批判におよび、あるいは米国の人種問題に関して徳川日本の礼賛となり、東京都の問題に波及し、はたまたシャンゼリゼの滑らかな舗装のことから野卑なベルリンの風俗におよんだ。
その会場の雰囲気は、残念ながらライブでないことには出来ない。そこで配布資料から「実記」を転載し、コメントの一部をのせて抄録にかえたい。

都市の眺望

ピッツバーグの夕景（明5・1・20）

「ピッツスボルク」府ハ「ペンシユルヴァニア」州西部ノ大都会ナリ、北緯四十度三十二分、西緯八十度二分ニ位シ、人口八万六千〇七十六人（七十一年ノ計）、合衆国ニテ第十六ノ都会タリ、其地ハ「アルゲニー」、及ヒ「モンゲフェラ」河ノ相会シテ、「オハヨ」河トナル交角アリ、「モンゲフェラ」河ニハ鉄橋ニテ懸橋ヲ架シテ、鐵路ヲ共上ニヤル、纏綿トシテ空中ヲ翔ルカ如シ、河ヲ挟ミテ層樓參差ト聳エ、夕陽ノ光ヲ遮リ、煤烟ノ天ニ薫スルハ、落霞モ為ニ黒ク、下流ニ数条ノ橋アリ、層層水ニ鑑ムハ、真ニ不霧ノ虹ナリ、雄都ノ氣象目ヲ驚ス、（I、一八〇）

フィラデルフィアの朝（明5・1・21）

黎明ニハ「ペンシルヴェニア」州東北ノ野ヲ走りテ、三竿ノ旭日ニ、一ノ大都府ヲ車左ニミル、旭陽連費ノ間ヨリ光輝ヲ映射シ、市塵ノ烟氣ハ蒸々トシテ雲ヲ薫シ、轟々タル突竈ハ天ニ朝シ、屋壁ハ參差トシテ河浜ニ起リ、鉄橋数条ノ河ニ横リテ、奇工ヲ極メタルハ、如何ナル名都ナルヤト問フニ、是即チ有名ナル費ラ特費府ニテ、正ニ「スタイケル」河ノ西岸ヲ走行セルナリ、「フェヤモント」苑ハ、正ニ向岸ナル岡阜ナリトイフ、（I一八九SF WDC）

アメリカ開化史をたどる旅路（明4・12・22）

一行ノ汽車、桑港ヨリ海岸山ノ隧道ヲ出テ、茫漠タル加利福ニノ平地カ、天ニ連リ平衍ナルヲ一見セシヨリ、米國開拓ノ情実ニハ、人ミナ感觸を生シ、川ヲミレハ其漕運灌溉ニ注意シ、野ヲミレハ其分田道路ニ注意シ、山ヲ走レハ其材木礦利ニ注意シ、村駅ヲ過レハ其鳩聚生理ノ状ニ注意シ、目ノ撃トコロ、車中ミナ開拓ノ談ヲサルハナシ、
今市高俄ヲ発シ、比州ニ至レハ、野熟シ林茂シ、人烟稠密、己ニ洋々タル開明ノ城ナリ、

雄都、名都、麗都。

雄都とはピッツバーグのような「勇壮な都市」、名都とはフィラデルフィアやボストンのような「歴史ある都市」、麗都とはパリやベニスのような「美しい都市」をさしている。

岩倉使節団は都市について極めて関心が深く、まず景観、眺望についての印象を、久米はこのような簡潔な言葉で表現している。そしてどうして都市を捉えるか、まず地勢からはいって歴史に及び、それから構造について道路、橋梁、上下水道、舗装、街路樹と観察していく。

とにかくその都市がどうなっているかをよく観察し記録している。とりわけそのインフラストラクチャーについても熱心に細かく観察していることは驚きである。その視点は唯物論的といつてよく、明治初期の知識人はまさにマテリアリストであったといえる。

例えば都市を説明するのにまず北緯何度、東経何度という地理上の位置から始め、人口なども統計的に一の単位まで正確に書く。この実証的なところが特徴である。文人や詩人のような観念的な事を言っているのはダメ、これでない文明は学び取れない。その意味で彼らは「文明の技師」だった。

都市基盤の研究

道路舗装法—ワシントンD.C. (総説)

道路ノ修築ニ用意厚キハ、商業国ノ美風ナリ、当府「ペンシルヴェニア」衝ノ如キハ、特ニ其美ナルモノニテ、百六十尺ノ広衝ニ、中央ヲ車路トナシ、左右ヲ人道トナシ、人道ノ闊サ約二十余尺、磚瓦ヲ甃固シ、歩行ニ利ス、倫敦府ノ広キ、甃石セサル街路ヲミス、巴黎府ノ凱旋門衝ノ如キハ、割石ヲ密布セル上ニ浄沙ヲ撒ス、其国ニイリ、其道路ノ修美ヲミレハ、政治ノ修荒、人民ノ貧富、頓ニ判然ヲ覚フナリ、

並木と舗装道路—パリ (明5・12・17)

左右ニハ樹ヲ植エルコト左右各両条ツ、ニテ、人ヲ樹間ノ清穢中ニ歩セシム、夜ハ瓦斯燈ヲ其砌ニ輝カス、燦トシテ連珠ノ如ク、雲ニ際シテ点点タリ、博物觀、博覽會等、此苑中ニ建築シ、傑閣路ヲ挟ミ、「セイン」河岸ニ聳エ、華煥目ヲ輝カス、一帶ノ路ハ、小石ヲ以テ地ヲ固築シテ、其上ニ織沙ヲ撒ス、峻峻トシテ洗フカ如シ、樹間ノ歩道ニハ、中ニ一条ノ石片ヲ敷ク、熟視スレハ石ニアラス、巴黎新法ノ叩キ土ナリ、

都市公園—セントラルパーク (明5・5・5)

午後三時ヨリ馬車ニ駕シテ、「セントラルパーク」ヲ回覽ス、此遊園ハ当府ニテ、寸金ト云ヘキ、地代ノ貴キ、其中央ニ於テ、南北二英里半、東西半英里ノ広地ヲ府中ノ公釐金ヲ以テ買ヒトリテ、借棄ノ園ヲ修メタル所ナリ、元來当府ハ兩河ノ嘴ニテ、総テ平地ナルユエ人工ヲ以テ山巒ヲ築起シ、天然ヲ欺ク名勝トナセリ、始メ此園ヲ起スニ当リテ、府中ノ園匠ヲシテ、仮山泉石ノ設ケヲ打点セシメシニ、名工各其匠思ヲ極メ、圖式ヲ取立タル、其中ニ於テ翹翹タルヲ選フニ、高五十名アリ、因テ五十区ニ割り、各名ニ分附シ、技倆ヲ尽サシメ、大矩ヲ縮メテ小矩トナシ、互ニ競テ匠心ヲ己ノ区分ニ尽シタルニヨリ、其勝致粗細ミナ宜シ、愈出テ愈佳ナリ、歐米公園中ニモ、此類少ナシト云、

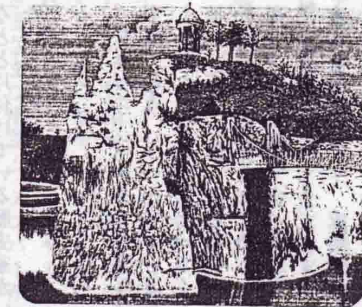
公園と「職工市街ノ法」Buttes Chaumont (明6・1・10)

今日觀覽シタル、「ビットショームン」苑ハ、其美拳中ノ一ナリ、此苑ニ遊ヒ、仮山ノ上ヨリ回瞰スレハ、巴黎東南部ノ市街ハ、屋瓦鱗ヲ敷テ、烟突ハ森森トシテ、黒烟ヲ吹キ、清空ニ兩ナラサルノ陰ヲ催シ、夕陽ノ楮瓦壁ヲ映射スルハ、晚霞モ為メニ黄ナリ、此ハ巴黎製作場ノ集ル所ニテ、此苑ニ盤遊スル住民ハ、平常其中ニ止息シ、勞作ヲナス職工ナリ、

岩倉使節團は都市基盤つまりインフラストラクチュアに強い関心を示している。これは幕末の使節にはないことだったし、まして他国人たとえば中国人、韓国人にはありえないことだった。久米らは都市がどうつくられていくかにも興味をもち、造成現場にもわざわざいってみている。

歴史家の中にはなぜその見聞を日本の近代化に生かせなかつたかとケチをつける人がいるが、

ビットショームンの泉石



そういう視点でものを見、それを記録して来ただけでも価値がある。直ぐ役に立てるということではなく、後年それが生きればいいじゃないか、その

意味で大いに評価すべきだ。

「道路舗装ノ行キ届キタルハ、商業国ノ美風ナリ」という言葉も、見事な表現と言え。そして道路舗装、上下水道、ガス灯管、街路樹、並木、公園、橋梁、交通機関、居住条件にいたるまで鋭く観察している。道路の舗装法にはいかなるものがあるか、例えばワシントンの街を歩いてもパリのシャンゼリゼを歩いても細かく観察している。「熟視スレハ」とあるが、立ち止まってじっくり見ているその息づかいまで感じられる。

名都の印象

ニューヨーク―喧鬧と殷賑 (明5・5・5)

「ブロードウエー」ノ大通リハ、新約克府中第一ノ繁華街ニテ、車馬行人ノ喧、常ニ路ニ溢ル地トス、街路ニハ磚形ノ石ヲ布キ、往返ノ街車ハ、形式ヲ小ニシ、路ニ鉄軌ヲ施サス、陸続トシテ来ル、前車ニ後ルレハ、後車己ニ至リ、一分時モ車ヲ待ツコトナシ、

パリ―「文明都雅ノ尖点」 (明5・11・16)

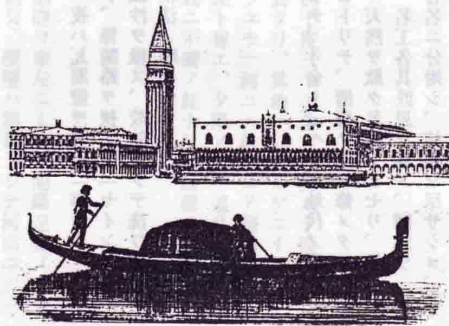
六時ニ巴黎府ノ「デイスト」駅ニ達シ、馬車ニテ巴黎ノ市街ヲ走ル、囁嚅タル層閣、街ヲ挟ミテ聳ヘ、路ミナ石を甃シ、樹ヲウエ、氣燈ヲ点ス、月輪正ニ上リ、名都ノ風景、自ラ人目ヲ麗シ、店店ニ綺羅ヲ陳ネ、旗亭ニ遊客ノ群ル、府人ノ氣風マタ、英京ト趣キヲ異ニス、既ニシテ「シャンゼルセー」ノ広衢ヲ馳セ、「アレチツリン」門前ナル館ニ著セリ、(四・四〇)
巴黎ノ市中ハ、到处ニ酒店、割烹店、茶、珈琲店アリ、樹陰ニ榻ヲオキ、遊客案ヲ対シテ飲ム、盛夏ニ涼ヲ納レ、晴夕ニ月ミル、劇場、樂堂、処処ニアリ、所謂ル歌舞終日無感容ノ氣象ヲ顯セリ、

ベルリン―戦後風俗の「粗率」頹廢 (明6・3・9)

此府ハ、新興ノ都ナレハ、一般人氣モ、朴素ニシテ、他大都府ノ輕薄ナルニ比セサリシニ、繁華ノ進ムニ從ヒ、次第ニ澆季シテ、輒近殊ニ頹衰セリ、且近年頻ニ兵革ヲ四境ニ用ヒ、人氣激昂シ、操業粗暴ナリ、

ヴェネチア―水都の恍惚 (明6・5・27)

此日ハ、駅舎ヨリ直ニ艇ニ上ル、艇ノ製作奇異ナリ、船首奮起シ、艇底円転トシテ、船ニ屋根アリ、中ニ茵席ヲ安シ、棹ヲ打テ泛泛トシテ往返ス、身ヲ清明上河ノ図中ニオクカ如シ、市塵鱗鱗トシテ水ニ鑑ミ、空氣清ク、日光爽カニ、嵐翠水ヲ籠メテ、晴波淪紋ヲ皺ム、艇ハ雲霧香縹ノ中ヲユク、飄飄乎トシテ登仙スル流如シ、府中ノ人、音楽ヲ好ミ唱歌ヲ喜ヒ、伴ヲ結ヒ舟ヲ蕩シテ、中流ニ遊フ、水調一声、響キ海雲ヲ遏メテ瀾、タリ、旅客ノ来ルモノ、相楽ミテ帰ルヲ忘ル、トナン、此日旅館ニ至レハ、樂伴館下ノ水上ニテ楽ヲ奏シテ、著府ヲ祝セリ、



「サンマリコ」寺鐘樓

ニューヨーク、ロンドン、パリの比較も鋭い。パリは「文明都雅の尖点」と表現されているが、「岩倉使節団」の面々はパリが好きだったようだ。少なくとも久米はパリに惚れ込んでいた。麗都パリの放つ雰囲気は酔ったのでしようね。江戸に似ていたからではないか。

久米はベルリンが嫌いでした。戦後の騒然たる時期で学生と軍隊が威張っていたし、成り上がりものの俗物都市だった。だからビスマルクの言葉も軽々しくは信じられないと留保をつけている。ところが、「岩倉使節団はビスマルクに傾倒し、ドイツ一辺倒になって帰ってきた」などと片付けている歴史家がいるが、とんでもないことだ。

それから、ベネチアの描写はとりわけ見事ですね。もう、うっとりするような表現です。得もいわれぬ官能が伝わってくる。ここには蘇東坡の「赤壁の譜」からの引用があるし、「水調一声、響き海雲をとどめて……」の「水調」は楊帝のつくった曲です。それをちゃんと知っていて引用している。まったく久米は隅に置きませんでした。永井荷風以上です。成島柳北もここまでいかなかった。

使節団は、国造りに必要なこと、政治、経済、産業、教育、あらゆるものを見た。キリスト教も、共和制も、機械工業も都市の構造も、そして舗装のやり方や街路樹のことまで観察した。しかし、一方ではピッツバークの眺望について、ベニス官能の世界についてもちゃんと書いている、そこがすごいですね。「実記」はそのところまで読み込んでもらわないと、実態がわからない。つまり明治維新も日本人もわからないといいたい。

国際交流グループ

連絡 浅沼晴男
TEL.080-596-1589
FAX.0462-75-5634

国際交流グループは「内外を問わず」メンバーとの団体・個人との「交流」を「積極的に推進すること」を目的として活動していきます。

具体的には、
 ①新年の懇親会
 ②会員相互の懇親会（ワインを飲む会）
 ③東京近郊の「実記」関連博物館、美術館、史跡などの見学会、④実記に関連した海外・国内のツアー、⑤他の団体との交流会、⑥個人の实記関連の研究発表会、などの企画・運営です。

毎年一月の例会は当グループの担当で、新年懇親会をかねて、いろいろな趣向・工夫を凝らして実施しております。

平成十二年正月は「ドイツ」をテーマにしたいと計画中で、今年度はその他、関西支部との交流会や、海外ツアー、「実記」関連の研究発表会などを検討中です。具体化した段階でそれぞれご案内をさし上げる予定です。

皆様の積極的なご参加、ご協力をお願い致します。

現未来グループ

連絡 郡山史郎
TEL.03-3492-8553
FAX.03-3492-8144

当グループは、初年度の一八九七年には倫理・教育を始めたとする現在の日本の諸問題につき討論を行ない、二年目の一九九八年度には政治家を交えた勉強会、イベントを開催しました。

「日本の今と将来を考え、良くするための行動につながる楽しいサロン」をスローガンに、本年度も皆様とご一緒に活動を続けたいと希望しています。

基本的にはテーマをしぼり深く考え、一つの行動指針、あるいは提案にまとめることが出来れば良いのではないかと思います。勿論、サロンですらから、この会の趣旨にあるように異なった意見や思想が共存できることが基本です。

その中から、「こういふことはこうした方がよい」という意見が出てくれば素晴らしい

実記グループ

連絡 ㈱クラウドインターチェンジプログラムズ
TEL.03-5469-2090(代) FAX.03-5469-2093

「米欧回覧実記」を読む会も三年目に入り、この七月から、いよいよ最後の五月目に入りまして、今年中には読み上げる予定です。

第十三回例会では、芳賀徹先生から素晴らしい「実記の読み方」をご教授頂き、メンバー一同ますます「実記」の価値を再認識しています。

「実記」メンバーおよび会員の方々からは、「実記」を読み終えたらもう一度第一冊目から読みたい、同時代の別の書物も読みたい、というご意見も出ています。

「実記」は、総論ではなく、「具体的にこの問題はこうしたほうがよい解決になる」という創造的かつ説得力のある議論で、しかも実行のための行動の処方箋のついでにあるものがほしいわけです。

皆様には是非ご参加とご協力をお願い致します。

「米欧回覧の会」会計報告

1998.4.1～1999.3.31

<収入>	
年会費（224会員）	672,000
賛助会費・寄付	85,000
例会および映像の会費	1,844,826
前年度よりの繰越	439,367
貯金利息	588
計	3,041,781

<支出>	
例会および映像の会関連費用	1,957,438
案内等郵便代	(110,110)
会場費	(389,175)
講師他お礼・お車代	(318,062)
食事・飲み物等	(1,032,638)
備品・事務消耗品	(107,453)
NEWS関連費用	597,600
11～14号印刷代	(403,200)
送付郵便代	(158,700)
封筒代	(35,700)
次年度へ繰越	486,743
計	3,041,781

歴史グループ

連絡 半澤健市 TEL&FAX.03-3717-5576(自宅)
なるべくファックスで
電子メール kenhanza@ba2.so-net.ne.jp

岩倉使節団がとめた近代国家日本はどう発展したのか。歴史部会はこのテーマを追跡してマを追随しています。毎回テキストを読んでの報告があり、そのあと自由な討論を行ないます。最近参加者数も増加しています。

今年、一月「昭和天皇独白録」四月、「戦艦大和ノ最後」と「大東亜戦争」の真相に迫ってきましたが、次回は七月に岩波文庫「米欧回覧実記」の解説者田中彰氏の新著「小国主義」（岩波新書・九年四月）をテキストに行ないます。現実としての「軍事大国」、「経済大国」に對峙した、現説としての「小国主義」を論じた興味深い一冊です。

多数のご参加をお願いします。

〈催し案内〉 分科会のお申し込み・お問い合わせは (7) 頁に記載の各担当幹事へ

★第十四回例会

日時：7月31日(土) 13:30~
場所：日本プレスセンターホール
テーマ：昭和史に学ぶ——大東亜戦争への道
講師：阪正康氏(ノンフィクション作家)
担当：歴史部会
(詳しくは改めてご案内します)

★分科会

●「米欧回覧実記」を読む会

第22回
日時：6月10日(木) 18:30
場所：青山ガーデンテラス
テーマ：イタリア「ナポリ、ベニス」他
第23回
日時：7月8日(木) 18:30
場所：青山ガーデンテラス
(クラウンインターチェンジ)
テーマ：「米欧回覧実記」第五巻
「ウィーン&万国博覧会」他

●現未来部会

日時：7月2日(金) 18:00
場所：国際文化会館
テーマ：日本の安全保障
発表：塚本弘・郡山史郎
会費：3,000円(食事代含む)

●歴史部会

日時：7月23日(金) 18:00
場所：国際文化会館セミナールーム
テーマ：田中彰著「小国主義」
(岩波新書)を中心に…

★第7回関西支部の集り

日時：7月8日(木) 13:00~17:00
場所：大阪大学工業会会議室(近鉄堂島ビル20階)
(芳賀徹先生がゲストでご出席の予定です)

お問い合わせは

電話・FAXとも06-853-3137山崎岳磨

「米欧回覧の会」の一年 '98年4月~'99年3月

<'98>

- 4/2 実記を読む会 ⑨:英国篇
25 第9回例会
「『米欧回覧実記』を読む…その面白さと難しさ」
講師 竹内啓一氏
- 5/7 実記を読む会 ⑩:ロンドン篇
6/4 実記を読む会 ⑪:リバプール篇他
8 歴史部会「憲法を考える本」を読む
22 第3回関西支部の集まり 大阪大学工業会会議室
24 現未来部会「日本の政治
(その改革のためのアイデアと行動)」
- 7/2 実記を読む会 ⑫:エジンバラ篇他
25 第10回例会「司馬史観をどうみるか…歴史と小説」
講師 中村政則氏
- 9/10 実記を読む会 ⑬:パリ前篇
16 現未来部会「現代日本の政治・経済・社会」
ゲスト 衆議院議員 峰崎直樹氏
- 10/2 歴史部会「司馬史観・再論」
8 実記を読む会 ⑭:パリ中篇
17 第11回例会「日本はどうなる・日本をどうする」
講師 衆議院議員 中村敦夫氏
- 11/5 実記を読む会 ⑮:パリ後篇
19 現未来部会「日本をどうする」
ゲスト 衆議院議員 熊谷 弘氏
- 12/3 実記を読む会 ⑯:ベルギー篇
7 第4回関西支部の集り
12 映像の会「岩倉使節の世界一周旅行」

<'99>

- 1/14 実記を読む会 ⑰:オランダ篇
22 歴史部会「昭和天皇独白録を巡って」
27 第5回関西支部の集り
29 第12回例会
「パリの新年」懇親パーティー・国際交流
- 2/4 実記を読む会 ⑱:ドイツ前篇
17 現未来部会 「日本をどうする」
ゲスト 衆議院議員 松本善明氏
- 3/4 実記を読む会 ⑲:ドイツ後篇

「米欧回覧の会」連絡先

192-0063 東京都八王子市元横山町1-14-16

イズミ・オフィス内

TEL 0426-46-3310

FAX 0426-45-8700

会費等振込先(郵便振込)

00180-2-580729米欧回覧の会

*編集後記

今回は、例会での全体会議や幹事会の内容をのせるため、八ページの構成になりました。どうかそれをよく読んで、同封のアンケートにお答え下さい。みなさまの率直なご意見をこのころからお待ちしています。そして新しいグループづくりにしても、お気持ちと余力のある方はぜひ積極的に参加して下さいを願っています。

「仕事は仲間をつくる」といいますが、とりわけこの会では本当にいい仲間ができます。「与えよ、さらば与えられん」です。